

みどりを活用した都市の 防災・減災の推進に関する研究

災害時における公園緑地の役割

- ・都市公園は、子供の遊び場、レクリエーションの場、自然環境の保全拠点、観光振興の拠点等多様な機能を有し、都市住民の豊かな生活を支えている。
- ・一方、都市公園が有する「オープンスペース」という特性は、避難場所や防災拠点の役割等を通じ、**日常利用だけでなく、災害発生時の被害軽減**にも効果を発揮する。
- ・平常時だけでなく、災害発生時の活用を考えて都市公園を計画、設計、整備、管理することが都市の防災性向上の観点から効果的である。



防災公園の計画・設計に関するガイドラインの策定・改訂

- ・平成7年の**阪神・淡路大震災**等の教訓を踏まえ、主として**地震に起因する市街地火災等の二次災害(地震火災)への対応**を対象に、防災公園の具体的な計画、設計の考え方を示した「**防災公園の計画・設計に関するガイドライン(案)**」を平成11年7月に策定(建設省都市局公園緑地課・建設省土木研究所環境研究部緑化生態研究室より公表)。
- ・その後、**東日本大震災**等の近年の大規模災害において公園が果たした役割・課題をもとに、**津波災害への対応の追加、帰宅困難者への配慮の充実**等を主な視点として盛り込み、平成27年9月に同ガイドラインを改訂し、国総研ホームページにおいて公表 (<http://www.nilim.go.jp/lab/bcg/siryoku/tnn/tnn0857.htm>)。



大規模火災の焼け止まりとなった例
大園公園(兵庫県神戸市)



樹林帯が津波漂流物を捕捉した例
(宮城県仙台市)



津波避難のための築山を整備した例
神栖中央公園(茨城県神栖市)



公園内で帰宅困難者を受入れた例
日比谷公園(東京都千代田区)

写真:①建設省近畿地方建設局、②一般社団法人日本公園緑地協会、③神栖市HP、④公益財団法人東京都公園協会

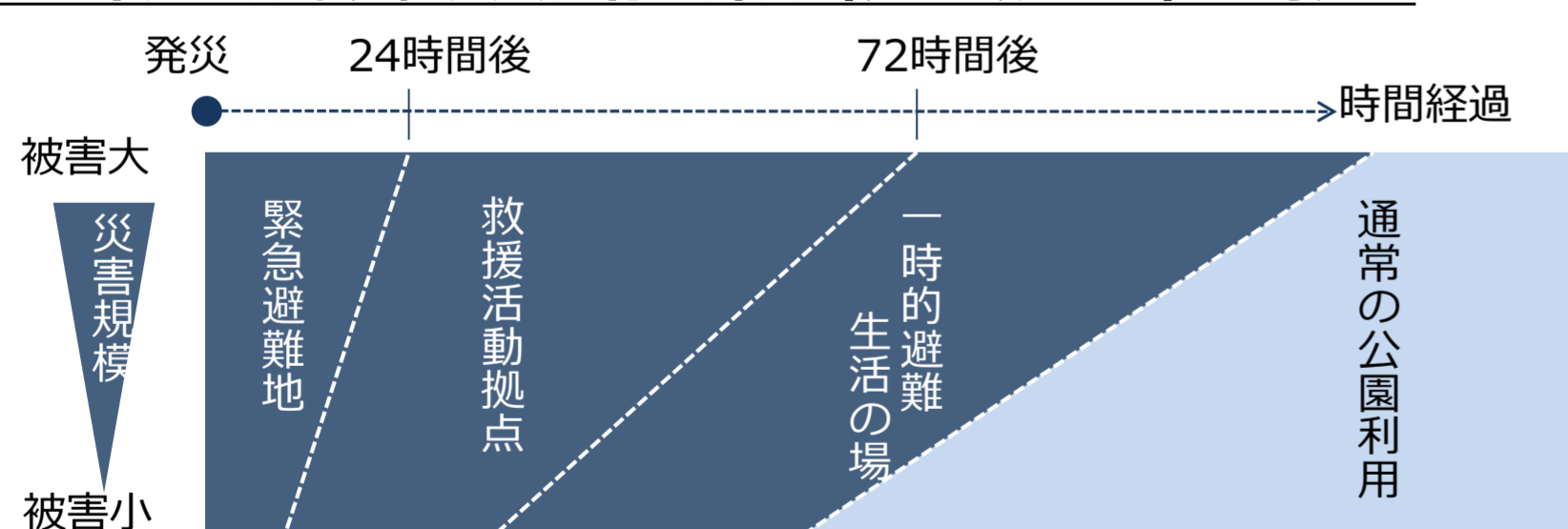
防災公園の計画・設計に関するガイドラインの更なる充実

都市の防災・減災へ一層寄与する上で次の研究が必要。

① 防災公園の管理運営手法に関する調査研究

- ・防災公園が災害時に適切に機能を発揮するためには、施設の整備だけでなく、平常時を含めた防災公園の運営管理に関する留意事項を過去の災害の教訓等も踏まえてとりまとめることが必要。

■時系列に応じた防災公園行動計画(タイムライン)の考え方



本震直後の緊急避難場所
八王寺中央公園(熊本県熊本市)



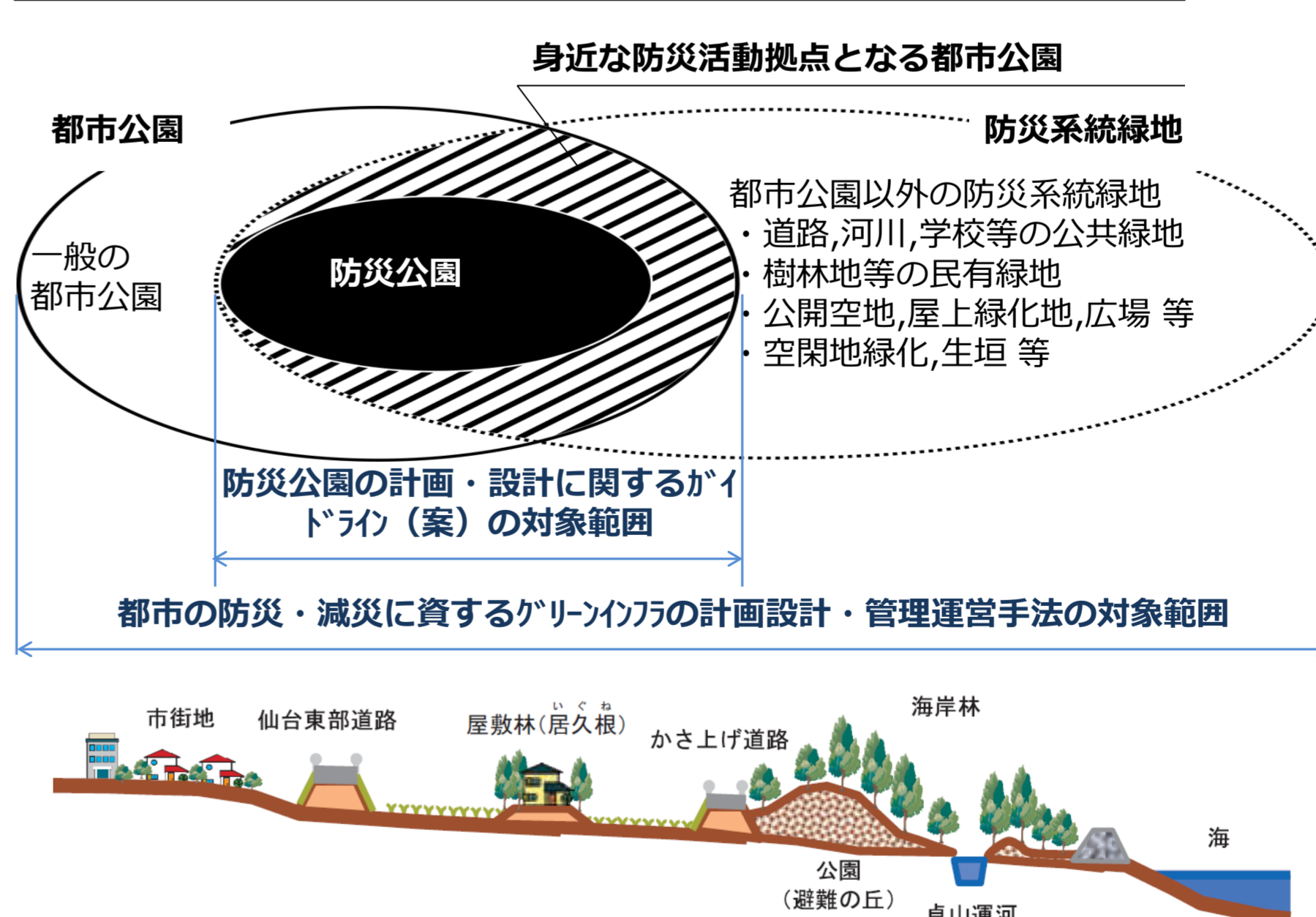
支援物資の集積・配布拠点
熊本県民総合運動公園(熊本県熊本市)

写真:⑤布田美智夫、⑥国土交通省国土技術政策総合研究所

② 防災系統緑地の配置の方法論に関する調査研究

- ・みどりが有する防災・減災機能は、都市公園に限らず、道路、河川、学校等の公共緑地や民有緑地でも発揮されることから、これらの防災系統緑地全体を対象とした配置等のあり方を整理することが必要。

■本研究における対象範囲(グリーンインフラ)と防災公園の関係



みどりによる津波防災プロジェクト
(宮城県仙台市)

出典:仙台市みどりの基本計画

当該研究の成果をもとに、今後ガイドライン(案)の増補改訂等を行う予定



研究成果や技術支援情報などをお届けする
国総研メールサービスの登録はこちらから
<http://www.nilim.go.jp/lab/bcg/mailmag/>

社会資本マネジメント研究センター 緑化生態研究室 荒金
Tel : 029-864-2742 E-mail : ryokkaseitai@nilim.go.jp
<http://www.nilim.go.jp/lab/ddg/>